



う

うれしいな みんなで祝う初誕生



かつての日本では、誕生日を祝う習慣はなく、お正月がくると、みんな一斉に一歳年が増える方式（数え年）で祝っていました。自分の生まれた日を祝うようになったのは、昭和25年以降です。

昔から、満一歳の誕生日だけは、よくぞ無事に一歳まで生きてきたという思いから、祝っていました。なんとか無事に生きながらえてほしいという思いで、生後三日、生後七日（お七夜、命名式）などを祝っていた家もあります。

一歳の祝いは今も盛んで、「一生」と「一升」を掛け合わせて、風呂敷に包んだ餅を子どもに背負わせる「一升餅（背負い餅）」や、わらじを履かせ、餅を踏ませる「踏み餅」、筆記具・ソロバン・書籍

などの品物から好きなものめがけてはいいで取りに行き、その品物で将来を占う「選り取り」も受け継がれています。

満一歳は、意味のある言葉を一つか二つ言えるようになり、つたい歩きから、歩き出そうとする時期です。しかし、立つ姿勢は赤ちゃんに大きな負担を強いることになります。「立てば歩めの親心」という諺もありますが、立つのも、歩くのも、あんまり急がないほうが赤ちゃんの身体のためには良いことも知っておいてくださいね。